

議長定例記者会見 会見録

日時：令和4年5月11日 10時30分～

場所：全員協議会室

1 冒頭の挨拶

2 質疑項目

議長・副議長の任期について

次の議長・副議長に引き継ぎたいことについて

議長の辞表について

自由民主党内の後任選別の状況について

1 冒頭の挨拶

(議長)おはようございます。ただ今から、5月の議長定例記者会見を始めさせていただきます。記者の皆さま方には大変お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。

本日は特に発表事項はございませんが、私の議長としての最後の締めくくりの記者会見となりますので、就任してからの1年間を振り返って少し感想を述べさせていただきます。

まず、この1年の大きな出来事、例年にないこととしましては、知事の交代がございました。9月から一見知事による新しい体制がスタートしておりますけども、現在も「強じんな美し国ビジョンみえ(仮称)」や「みえ元気プラン(仮称)」の作成が進められておりますけど、二元代表制の一翼を担う議会の議長として、3月には概要案に対して議会の考えをしっかりと申し入れさせていただきましたし、今後、それらを踏まえた最終案が6月に提示される予定でございますので、さらに、議論が深まることを期待しております。

また議長就任時に、大きく2点、「新型コロナウイルス感染症への対応」と、「三重県議会議員の政治倫理に関する条例の見直しに向けた検討」に取り組むたいと申し上げました。

新型コロナウイルス感染症への対応については、就任から緊急会議を5回開催しておりますし、随時、県当局の対応等を確認しながら、新型コロナウイルス感染症に関する関連補正予算を迅速に審議・可決することができました。

また、8月から9月にかけて県内に緊急事態宣言が発令された際には、副議長と合同で感染拡大防止に向けた動画メッセージを発信させていただきました。残念ながら、未だ収束に至っていない新型コロナウイルスでございますけども、コロナ禍においても適切な議会運営に努めることができたのではないかと思います。

ております。

三重県議会議員の政治倫理に関する条例の見直しに向けた検討については、議会改革推進会議にプロジェクト会議が設置され、検討が進められてきました。プロジェクト会議からは、既存条例の改正と逐条解説の作成の必要性が報告されておりまして、今後は、具体的な条例改正等に向けた取り組みが進められることとなっております。

なお、11月には、「SNSと人権侵害」と題して、参加型のワークショップ形式での議員勉強会を開催するなど、この1年間は常に人権というものを意識しながら取り組みを進めてまいりましたが、そのような中、2年間の検討を経て、差別解消を目指す条例検討調査特別委員会において、条例案がまとめられたことも、大変意義深いものであると思っております。

さまざまな取り組みが、県民の負託を受けた議員として政治倫理の在り方を再認識する機会となったのではないかと感じています。

以上が、1年間の感想でございますけども、最後に、三重県議会の議長としてこの1年間、いろんな形でその役割を果たさせていただいたことにつきまして、皆さま方、さらには関係者の方々に深く感謝を申し上げたいと思います。

今後も引き続き開かれた県議会を目指して、今後は一議員となることとなりますけども、努力をしてみたいと考えておりますので、引き続きよろしくお願いを申し上げます。

私からは以上でございますが、この1年間、私を支えていただき、広聴広報会議の座長としてもご尽力いただきました稲垣副議長からも、一言、感想をいただきたいと思っております。

(副議長) それでは失礼します。

私からも、副議長に就任してからの1年間を振り返って、少し感想を述べさせていただきます。

昨年5月に副議長に就任して以来、青木議長を補佐するとともに、広聴広報会議の座長として、県議会の情報を広く発信し、県民の皆様からさまざまな意見を聞かせていただく取り組みを展開してまいりました。

印象に残っていますのは、本年2月に桑名市で開催しました「みえ現場 de 県議会」です。テーマを「コロナ禍からの復興に向けて」とし、一部の方はオンラインで参加いただき、現場とオンラインを織り交ぜたハイブリッド形式で実施する中で、参加者の方々からさまざまなご意見を聞かせていただくことができました。

開催時には、県内全域を対象にまん延防止等重点措置が実施されていましたが、オンライン傍聴を可能にしたうえで、現地での傍聴を控えていただくなど、コロナ禍においても適切に対応して開催することができました。

加えて、昨日資料提供させていただきましたが、コロナ禍で開催ができておりませんでした「みえ高校生県議会」を8月22日に行うことを決定し、準備を進めることができました。8校29名の高校生に参加をいただきますので、期待したいと思っております。

私は最近つくづく主権者教育の重要性を感じておりますので、このような取り組みが、その一助になればと思っております。

また広聴広報会議の取り組みから少し外れますが、この1年間で議会運営に関係するさまざまなことについて、オンライン化が図られたことが印象的でした。議員各自に貸与されたタブレット型端末の使用基準が作成され、本会議等での使用が始まったことや、委員会においてオンラインによる県内外調査を可能としたこと、オンラインによる参考人招致を可能としたことなど、コロナ禍に対応する議会改革が進められましたので、今後より良いものになることを期待しています。

最後にこの1年間、三重県議会の副議長としてその役割を果たさせていただいたことについて、まずは深く感謝申し上げますとともに、報道機関の皆様には、議会の広報にいつもご協力いただき、大変感謝をしております。引き続き、皆さま方のご協力をよろしくお願い申し上げます。

私からは以上でございます。

2 質疑応答

議長・副議長の任期について

(質問) 今日で就任から最後の定例記者会見ということになるということでもよろしいですかね。締めくくりでいろいろと振り返ってはいいただいたんですけども、1年間の任期ということについて、1年やってみて、この長さ、さまざまなことができたという、役割果たせたとおっしゃっていただきましたけれども、1年間という任期の、短さというのかな、長いのかもかもしれませんが、この期間についてどのように印象を持たれましたか。

(議長) 1年が短いとか長いとかいう感覚はその人によって違うと思いますし、その年の中身によってもだいぶ違うのかなと思ってます。特に今年、僕は今まで議長してませんので比べることができないので感覚的なことですが、コロナ禍におきまして、立候補した時にもいろんな質問もあったり、そういう現時点の状況がいろいろあったわけでありまして、その後、コロナ禍の中での対応というのが、ずっと続いてきたわけでございます。今も言いましたけども、緊急会議の開催もその一つの形ではないかなと思ってます。7月に紀伊半島の3県議会もありまして、大変大事な重要な会議だったのでぜひとも開催したい。和歌山、奈良、三重が、今までいろんな指摘もありましたので、テーマ

を持ってきちっと議論することが大事だろうということで、それも形をいろいろ工夫しながら開催できたなと思ってます。その後、知事が交代するというような状況もありましたし、当然知事選とか衆議院選もありましたし、それから、もうずっと1年間振り返るとですね、そんなことがたくさんあったわけですので、結論に戻りますと、こういった中身の濃い1年だったんじゃないかなと思っておりますので、そういったことで、だから2年がいいとか1年がいいとかその辺ちょっと分かりませんが、自分なりにはこの1年、いろんな議論する機会があったなと思っております。

(質問) 副議長いかがでしょうか。

(副議長) 私も1年、青木議長のもとでいろんな良い経験をさせていただいたかなと思ってます。長い短いというよりも、三重県議会はたくさんの人材がいますので、例えば副議長職はやっぱり1年で、いろんな経験をいろんな方がここでまた積んでいただくというのも大事な事かなということを感じてます。私にとっては非常に充実した1年だったなと感じてます。

(質問) そうすると、お二人ともこの1年という任期は、期間としては適切であろうという認識ということでよろしいですか。

(議長) 議会改革推進会議で議論いただいて、私の次の5月19日以降のスタイルを決めていただいて、2年以内ということであったわけですが、時によっては1年、時には2年で判断いただくところかなと思ってます。

(質問) 副議長も同様のお考えですか。

(副議長) そうですね。やはり議会改革推進会議でしっかり検討もいただきましたんで、今議長が言われたとおりかなと思ってます。

○次の議長・副議長に引き継ぎたいことについて

(質問) おつかれさまでした。二人にお尋ねなんですけども、随分充実した一年を送られたとのことだったんですが、それでも次の方たちに、これは力を入れてもらいたいとか、まだやり残しているのが課題として、これが残っている、力を入れてほしいことがもしありましたら、それぞれお尋ねできますか。

(議長) 前議長からの引き継ぎがあったときに、県内の市議会議長会とか、町村議会議長会との連携というのを特に言われました。それはずっとこだわりの

がら、私どもも常にこういう形でどうだろうという提案はいろいろさせてもらってきたことがございます。しかし形としてなかなか、例えば要望のときでも本会議場で皆さんの要望をオープンにしてはどうでしょうかとか、そういったことも提案をしたんですけど、市議会議長会と町村議会議長会との組織上の違いもあつたりとか、そういうことでなかなかすつといかなかったところもありまして、課題として残っているのかなと思っています。ただ、今後これは非常に大事な話で、数年前にいわゆる防災・減災、国土強靱化の意見書の採択のことがあったと思うんですけども、連携したがゆえに、いろんな方向に、国にも届いたとか、全国に広がった、うちだけがしたわけじゃないですけど、スピーディーにやれた時の連携があったと思うんですね、29市町、県議会入れて30議会が全部意見書を採択したと、そんなこともかつてありましたので、それも含めているようなテーマで、常に県内議員同士が三重県のために意見を交わす機会、そしてそれを連携して行動する機会というのは必要なのかなと思っていますので、引き続き次の正副議長に引き継いでいきたいなと思っていますのでございます。

(副議長) 広聴広報会議の座長という立場で申し上げますと、先ほど申し上げました、みえ高校生県議会を準備はいたしましたけれども開催は今年の8月22日ですので、その開催に向けて、より良いものにしていただきたい、引き継ぎをしっかりとさせていただきたいなと思っています。あとコロナもありまして、出前講座が、なかなかやりにくい状況が続いていましたので、この1年は1校だけお邪魔させてもらったんですけども、こういった取り組みは、先ほど冒頭申し上げました主権者教育とかいろんな意味で、議会を身近に、小学生・中学生・高校生に感じてもらう機会は、作っていくべきだと思っけていて、コロナも明けてくる中で、そういう取り組みをさらに充実させてほしいなと思っております。

- 第二県政記者クラブの方も含めてお願いします -

○議長の辞表について

(質問) 去年もともと役選に出られたときに、任期は申し合わせで一年だとおっしゃって、今お話を総括すると、一応この役選時に辞表は出されるんですか。

(議長) おそらく就任会見で申し上げているんですけども、2年前の5月、3年前かな、中嶋議長のとくとも同じケースになってくると思う、一旦1年間振り返りながら、辞表を出させていただいて、その後、周りの方々とご相談申し上げるといふそんな言い方をしたかと思ひます。この1年考えまして、今回も

そのときの決意には変わりございませんので、辞表を必ず出させていただきます。

自由民主党内の後任選別の状況について

(質問) 県議会の場合、一部県内市議会であるように、議長、副議長になると会派籍を離れるという市議会もありますけど、そこはずっと会派そのままの籍は残してるんで、あえて今、自民会派に議長は属しておられるんでお聞きしますけど、この後任の役選は今どんな状態なんですか。自民さんの中の話でいいです。

(議長) 事実しか伝えませんが、想像とか憶測とかそんなのを別として、明日、代表者会議等ありますけども、昼に会派総会が持たれることになっています。それからどのように進めていくかについて、中森代表を中心に進められていくのは聞いているんですけども、水面下とか一切分かっていません。

(質問) 会派総会で話すという中身は、副議長選別ではなくて、議長選別も含めて話すってことですか。

(議長) ちょっとそれも代表の考え方だと思いますけども、例年ですと、まずは議長なり副議長を求めていくのかということのを会派に諮るところからスタートしていくと思います。

(質問) ということは、今期は平成31年の県議選改選で、第一会派と第二会派で、正副議長を交互にある程度取り決めていくと。そのこのところの合意に基づいて、とりあえず平成31年の時に、中嶋議長自民から出られて、次の年に日沖さん新政みえのほうから出られて、今自民の青木さんという形になってるじゃないですか。それから順繰りからいくと、今回は新政みえさんが議長で、自民さんが副議長だけど、暗黙の取り決めは関係なしに、一応議長副議長を自民会派の中で候補として話をもむということですか。

(議長) 交代で出すというの、別に取り決められてないと思うんですけども、今から考えるとよく似た会派数なので、そうなのかって想像はされるかも分かりませんが、特にそういう交代で出しましょうという取り決めは聞いておりませんので、それぞれの会派が話し合いの中で、適齢期の方の人数とかそういうのもあると思いますし、会派間バランスもあると思いますし、党員のバランスもある、いろんなことを考えながら進められるのかなと思ってます。

(質問)表に出てる話と裏の話は違うんですけど、結局議長まで含めて候補選ぶということは、今回の役選は主戦論でいくということですね。

(議長)辞める私が、そこまでなかなかそれは言いにくいことございまして、本当だったら2年のルールを破って辞めることになりますんで、あとはちょっと申し訳ないですけど、残任期間については会派にお任せをするしかないんで、そこまではなかなか言及しにくいところでございます。

(質問)言及しにくい状況の中で、今回、夏に参院選控えているじゃないですか。ここは知事選のような相乗りって形はできないですよ。それはそうですよね。国政選挙だし、それぞれの党派色が出るわけだから、今年の夏の参院選というのは、去年の9月の知事選のように相乗りという形はできにくいですよ。

(議長)それは想像ですけども、国政選挙で今の予想からいくと対決ということになると思います。

(質問)その流れの中で、今回の役選というのも背景にそういうことがあって、ある程度その主戦論に傾かざるを得ないという捉え方でよろしいですか。

(議長)基本的には、国政の選挙と議会の中の会派の在り方は別ものと思っておりますので、それはそれで整理されていくんじゃないかなと、影響がゼロというわけじゃないと思いますけども、これは割り切っているんな他会派、他党との関係もあると思いますので、それはそれで議会は一枚岩で二元代表制の一翼を担う形として進んでいくんではないかなと思っています。

(質問)ありていに言えば、県民の中にも当然、自民支持者もいるし、立憲支持者もいるし、国民支持者もいるんですけど、その人たちの投票行動がある程度、各政党の目標とか訴えること含めて、そこの投票行動に入るわけだから、分かりにくい動き方されると誰に入れていいとか、そこのところの党派色っての分からなくなるじゃないですか。それからいけば大まかに言えば、首長選挙であるとか、知事選とか、それとか県会議員の選挙とかそういう地方選についてはそれぞれでその中でやられるけども、国政選挙については、これについてはある程度、党派色をお互い出し合って政策を出して、そこでの選択に任ずというふうな、そういう大きな区分けでよろしいですか。

(議長)今、ご質問いただいた内容にほぼ近いんじゃないかなと思ってます。

だからといって、役選に直接絡んでくるとは思いませんけど。

(質問) 実際問題、去年の9月知事選では、一応相乗りだったわけじゃないですか。そこは党派色越えて、要は首長職は違うという認識なんですよ。それもすべてじゃなくて、名張市長選のように場合によっては、それぞれの党派色出してやる場合もあるということですね。

(議長) 時と場合、それから地域によってもそれぞれ違うんじゃないかなと思ってます。タイミングもあると思います。これも私がいろいろと後継指名するわけでもないの、難しいところでございます。

(質問) 議長がご存知の範囲で、自民党内で期数で当然ある程度選択になると思うんですけど、議長候補と副議長候補でどなたが今、期数とかそれと年齢とかいろいろ考慮すると、どなたがなってるわけですか。

(議長) 今のところ、5期が議長経験者が私入れて2人、副議長経験者が3人。ないのは津田県議ということなので、そういった6人、5期がおりますので、その辺がもしかしたら対象になってくるのかなということでございます。想像しているだけです。

(質問) 今だから自民さんの5期で、前野さんと中森さんと、青木さんは議長やられているので、中嶋さんと津田さんと服部さんがいて、中嶋さんと青木さんは議長経験で、副議長経験は前野さんと中森さんと服部さんだけですよね。

(議長) そうです。

(質問) 津田さんは副もまだやられてない。

(議長) はい。

(質問) この中で優先的にいうと副議長をされた方が議長候補になる可能性が高いじゃないですか。

(議長) いや、なかなかそれも、私していないので、すいません。なかなかそれも。

(質問) 中嶋さんも副経験なくて議長になりましたね。

(議長) 中嶋、青木はいきなりいっていますので。

(質問) なるほど。じゃあ津田さんが議長候補になる可能性もなきにしもあらずと。

(議長) ただ、今は自民党県連の幹事長をされていますので、僕の幹事長2年の経験からいくと、なかなかその参議院選のさなかにそれが可能かと言ったら不可能に近いんじゃないかなと想像はします。

(質問) だと、ざくっといくと、前野さんか中森さんか服部さんが要は議長候補になる可能性が高いということですね。

(議長) どうでしょうかね。皆さん会派の方が。

(質問) 選択肢からいくとそうなるじゃないですか。

(議長) というか、本人の意欲の問題ですから、どう意欲を示されるのかは明日以降の話だと思っています。

(質問) その時に、副議長を先にやったとか後にやったとかいうのも選択肢の一つになるんですか。

(議長) すいません。いろんな細かいところまで聞いていただきますが、時によってはそういうのもあるのかなあとは思いますが、それも想像の域ですね。

(質問) なるほど。ありがとうございました。

(議長) 最後にちょっと一言だけ。いろいろと今も振り返りをさせていただきました。今回、自分としては、いろんな身近な問題も取り上げてきました。皆さんもう気づいてもらっていると思いますけども、例えば細かい話ですけど、議席番号が42番の欠番がいつの間にか無くなって、今まで51人なのに52番まであったのが、夏ごろからもう永久欠番が昭和40年代ぐらいから続いていたんですけど、それが無くなっています。それから前回、前々回ですかね、記者さんにご質問いただいた、例の個人情報をもつ議案への配慮ということで、今後そういった番地までとか名前を出さないというような形で、それも整

理をさせていただいたところでございます。いろんな勉強会にしましても、それから取り組みにしましても、今年1年コロナ禍であったということもありますけども、どう県民の命と暮らしを守っていくか。そして、人権もこだわりながら1年間を過ごしてきたつもりでございます。今後とも皆さま方のまたご指導、ご助言賜りますよう改めてお願い申し上げます。今日はお時間いただきましてありがとうございました。

(質問) 永久欠番というのはそれはどういう。42番が無くなったと。

(議長) 42番が昭和40年代から使われていなかったんです。だから最終が52番だったんですね、議席番号が。この8月までかな。今回途中で議席を変更するときに整理をさせていただいて、42番の方がそれから存在するというところでございます。

ありがとうございました。

(以上) 10時59分 終了